

記念事業募金



2021年に、大阪大学は創立90周年、大阪外国語大学は創立100周年を迎えました。
本学では、「思い つなげる つむぎあう」をスローガンに、本学発祥の地である中之島、さらに吹田、豊中、箕面の
各キャンパスにおいて、さまざまなイベントを開催しております。
大阪大学創立90周年・大阪大学外国語大学創立100周年記念事業募金へのご寄付をよろしくお願いします。



中之島キャンパス
再開発事業



箕面新キャンパス
整備事業



その他
記念事業

■ ご寄付の方法

ゆうちょ銀行、金融機関窓口でのお支払い	所定の払込取扱票をご利用ください。お手元に払込票がない場合は、お手数ですが、未来基金事務局までお問い合わせください。
ATM、ネットバンキングからのお振込み	大阪大学未来基金のホームページよりお申し込み手続き後、お振込みください。
クレジットカードのご利用	大阪大学未来基金のホームページからクレジットカードによるご寄付のお申込みを受け付けています。
コンビニ払いのご利用	大阪大学未来基金のホームページからコンビニ払いによるご寄付のお申込みを受け付けています。

大阪大学未来基金

— 活動報告書 2021 —



大阪大学未来基金を通じて
多大なご支援を賜わり、
誠にありがとうございます。

大阪大学総長 西尾章治郎



本年、大阪大学は創立90周年、大阪外国語大学は創立100周年を迎えました。

本学は、大阪の政財界や市民の皆さまの熱烈なご支援により、地域社会と結びついた「市民主導の帝国大学」として1931年に誕生しました。創立以来、普遍の真理を探究し、世界最先端の学術研究を行うとともに、次代の社会を支え、人類の理想の実現を図る有能な人材を社会に輩出し、常に社会とともに歩んでまいりました。また、「大阪に国際人を育てる学校を」という林蝶子女史の篤志によって創設された大阪外国語大学は、外国語教育・研究の西の雄として大きく発展し、大阪大学との統合後はその伝統を外国語学部に継承してまいりました。

この記念すべき年を迎えるにあたり、「想い つなげる つむぎあう」をスローガンに、地域の方々や企業の皆さまにご参加いただく、魅力あるさまざまなイベントを計画しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により記念式典等、一部の行事は延期又は開催形態を見直して実施しております。

昨年来、世界中に広まった新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響は甚大であり、全世界が未曾有の危機に見舞われております。また、多くの方が犠牲になられ、経済的苦境に追い込まれ、そして厳しく苦しい生活を強いられております。今後人類は「コロナ新時代」と呼ばれる難局に立ち向かわなくてはなりません。一方でこの難局は、これまで常識とされてきたことを見直す機会とも捉えることができます。大阪大学は、改めて大学のあるべき姿を再考し、「多様性の尊重と豊かな時間により、自由な発想と高い知性を育む」という理念のもと、「生きがいを育む社会」を創造する、という高い理想を掲げ、社会の多様なステークホルダーとの共創を通して、複雑化かつ多様化する地球規模の社会的課題を解決する活動を行ってまいります。

大阪大学はこれからも、50年後、100年後そしてさらにその先の未来を見据え、長年の伝統のなかで培ってきた知の財産、人的資源を継承し、新しい時代と社会の要請に応えるべく教育・研究の一層の充実を図ってまいります。しかしながら、世界屈指の研究型総合大学へと発展し、自らが理想として掲げた「生きがいを育む社会」を創造するためには、長期的に安定した財政基盤の強化、基金の充実が不可欠です。

大阪大学未来基金は、2009年に設置して以来、多くの皆さまからの温かいご支援により、順調にその規模を拡大してまいりました。特に、2020年度は、大阪大学創立90周年・大阪外国語大学創立100周年記念事業募金や新型コロナウイルス感染症対策基金、クラウドファンディングをはじめとして、さまざまな事業にご寄付いただき衷心より感謝申し上げます。これらにつきましては、「コロナ新時代」において本学が立ち止まることなく新たな一歩を踏み出すため、そして、地域に根ざした大学であり続けるとともに、本学の学生、教員、研究者が未来社会の「ゆめ」の実現に向けて、世界に羽ばたくための多様な教育研究事業に活用させていただいております。

卒業生・保護者や地域の皆さまをはじめ、企業・団体等の皆さまには、引き続き大阪大学未来基金に温かいご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
ご寄付の総額は104億円に。

大阪大学未来基金の受入金額は、2021年3月に累計104億円に達しました。温かいご支援を賜りましたことに、心より感謝申し上げます。皆さまからのご寄付は、大阪大学のさまざまな事業に有効活用させていただいております。

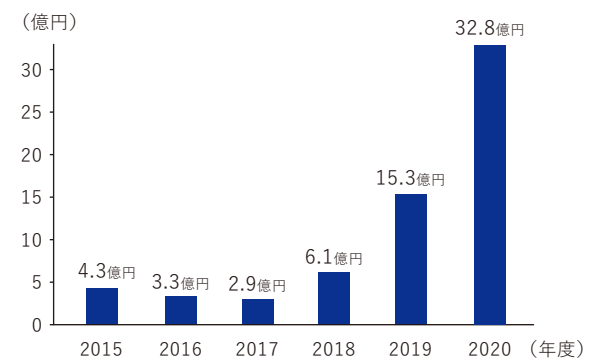
当基金の設置当初(2009年5月)から2021年3月末までの収支状況は、以下のとおりとなっております。

基金残高は約72.6億円、前年度比約20.3億円の増加となりました。2021年に迎えました「大阪大学創立90周年・大阪外国語大学創立100周年」の記念事業に対するご寄付や新型コロナウイルスの対策へのご寄付など、多くのご支援をいただきました。また、記念事業基金に限らず、各部局や課外活動へのご寄付等、多大なるご支援をいただいております。

当基金は、卒業生をはじめ、地域社会、企業・団体など多くの皆さまのご支援に支えられてまいりました。感謝の気持ちを忘れずに、大阪大学未来基金事業をさらに活発化してまいりたく、今後とも何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

大阪大学理事・副学長(共創担当) 金田 安史

●寄付額の推移(年度別)



●収支状況

内訳		累計額(億円)
収入	寄付受入	102.1
	運用益	1.9
	小計	104.0
支出	ゆめ基金事業への支出	4.4
	特定基金事業への支出	26.5
	活動費	0.5
	小計	31.4
基金残高(2021年3月31日現在)		72.6
うち記念事業		24.5

(2009年5月～2021年3月)

■未来基金の概要

大阪大学は、社会の安寧と福祉、世界平和、人類と自然環境の調和に貢献する大学となることを志し、多様な知の協奏と共創によって、学問の真髄を極める高いレベルの教育研究を追求しています。また、新たな学問領域の創成、専門分野を超えた知の統合学修を通じて、地球規模の社会問題を解決し、人間性豊かな社会の創造に大きく貢献する人材を輩出します。

大阪大学未来基金は、これらの活動を支える基盤として、学生の活動や教育研究、国際交流、社会連携等、幅広い支援活動に活用させていただきます。



大阪大学未来基金



大阪大学未来基金
ゆめ基金

(未来社会に向けて)

特定基金

(特定の目的に向けて)

未来社会の「ゆめ」を実現させるため大阪大学を応援していただく基金で、この基金の運用益をもとに、未来を支える学生支援、教育研究支援、国際交流支援、社会連携支援等の事業に活用させていただきます。

使途を特定したプロジェクトをご支援いただくために募集をしているものです。

- 全学プロジェクト
- 学部・研究科等のプロジェクト
- 修学支援・研究者等支援のプロジェクト
- 課外活動等のプロジェクト
- 冠プロジェクト



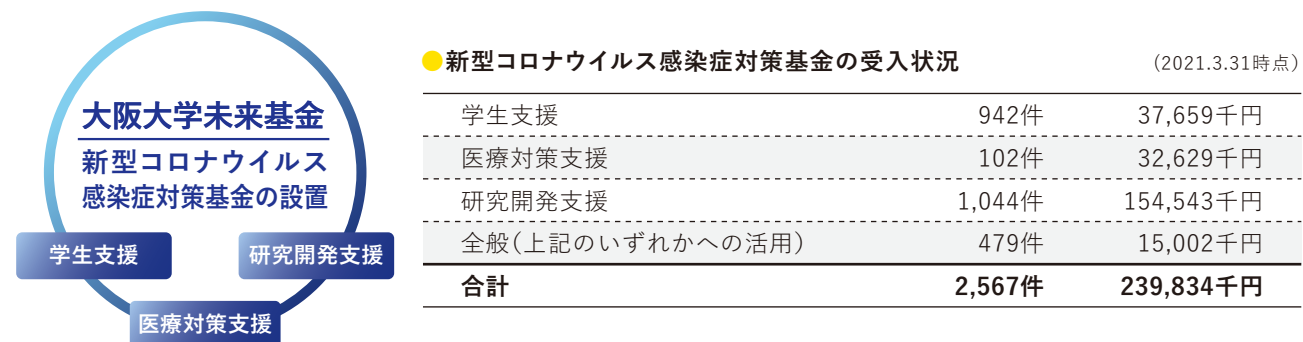
新型コロナウイルス感染症対策基金について

2020年、緊急事態宣言が発出され、新型コロナウイルスの感染拡大が危惧されるさなか、教育環境の整備や医療体制の維持等、数多くのご心配やご支援の声をいただき、皆さまのお声を受け、新型コロナウイルス感染症への対策支援として、同年5月に「新型コロナウイルス感染症対策基金」を設立しました。

大阪大学は、大学の持てる力を結集し、新型コロナウイルス感染症に立ち向かう活動を推進しております。教育面では、対面授業やメディア授業のそれぞれの長所を活かして併用する「ブレンデッド教育」を本学の標準スタイルとして進めていくこととしており、より効果の高い教育を実践してまいります。修学支援として、メディア授業受講のためのWi-Fiルータの無償貸出、海外留学からの帰国時における待機や移動に係る費用の支援等を進めさせていただいています。研究面では、学内の多くの部局が連携し、さまざまな基礎研究の成果をもとに、新型コロナウイルス感染症にかかる予防ワクチン、診断法、治療薬等の開発に取り組んでおります。医療面では、医学部附属病院において、重症患者を中心に受け入れて集中治療を実施するとともに、感染症対策を徹底しながら一般診療を継続しております。

「新型コロナウイルス感染症対策基金」設立以降、本基金に対するご寄付は2,500件を超え、2021年3月末時点で総額2億4千万円に達しようとしています。皆さまからの多大なご支援に心から感謝申し上げます。賜りました寄付金については、これらの取組みに対して、国や本学の財源では不足するものを中心に活用をさせていただいております。

次のページから、「学生支援」「医療対策支援」「研究開発支援」への活用状況をご報告いたします。

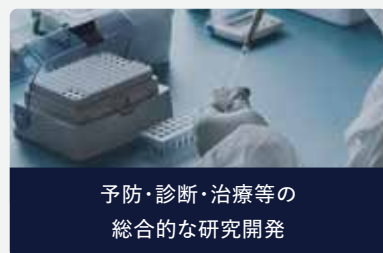


PICK UP! 感染症総合教育研究拠点の設置

新型コロナウイルス感染症の流行により、氾濫する真偽不明の情報、軽視されていた感染症の基礎研究、感染症の流行に弱い医療体制など、日本が抱える課題が浮き彫りになりました。これらを教訓に、今回の困難を乗り越え、次なる感染症の流行に備えるため、大学の知や人材が結集する「感染症総合教育研究拠点」を2021年4月に設置しました。



社会への信頼性の高い
総合的な情報発信



予防・診断・治療等の
総合的な研究開発



医療従事者等の教育訓練や
感染症対策リーダー育成

オール阪大で感染症の脅威から人々の「いのち」と「暮らし」を守る

本拠点では、学内外、国内外の機関や産業界と連携し、感染症の脅威から人々の「いのち」と「暮らし」を守ることを目指し、①科学的なエビデンスに基づく総合的な情報発信、②予防、診断、治療法等の総合的な研究開発、③医療従事者への感染症対策に関する最新技術・知識の教育訓練、感染症対策リーダーの育成に取り組めます。研究型総合大学としての利点を生かし、人類共通の課題である感染症の制圧に貢献してまいります。

新型コロナウイルス感染症の有効な予防ワクチン、診断技術、治療薬等の開発へのご支援については、「新型コロナウイルス感染症対策基金」へのご支援をお願いいたします。 ※P7にて研究開発支援の活用状況をご報告いたします。

新型コロナウイルス感染症対策基金の活用状況 | 学生支援

新型コロナウイルス感染症対策基金により、メディア授業の円滑な実施や、政府が求める帰国後の待機・移動手段に対応するなど、**2,350名**を超える学生に支援を実施することができました。多くのご支援を賜り、誠にありがとうございました。

学生への支援は、国や本学財源だけでは実施が困難なものもあり、皆さまからのご寄付をいただくことにより、更なる学生支援が可能となりました。



大阪大学における学生支援

学生支援緊急給付金

学生2,600名以上

家庭から自立してアルバイト等により学費・生活費を賄っている学生で、アルバイト収入の大幅な減少により、修学の継続が困難な者を対象に選考を行い、住民税非課税世帯の学生は20万円、それ以外の世帯の学生は10万円が国から支給されました。

私費外国人留学生修学支援

学生1,400名以上

「留学」の在留資格をもつ私費外国人留学生(正規課程在学中)を対象に、一人あたり3万円の支給を実施しました。

Wi-Fiルータの無償貸出

学生450名以上

昨年4月より、新型コロナウイルス感染症拡大防止を契機に、対面授業とメディア授業を効果的に組み合わせる「ブレンデッド教育」を進めています。その際、経済的に困窮し、自宅や下宿でインターネット環境を整えることができない学生を中心にモバイル・Wi-Fiルータを無償で貸与しました。

【医学部医学科 3年】 この度は、大阪大学未来基金にご寄付いただき、ありがとうございます。新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、大学の講義の形式も対面からオンラインに変わってきております。その中で今回のWi-Fiルータという形でのご支援は、非常にありがたいものであると考えております。今回、ご支援いただいたことを心に刻み、将来、いかなる形でも社会に還元していきたいです。

帰国・来日する留学生に対する待機支援

学生500名以上

本学では、海外への学生派遣、海外から留学生受入れの両方に力を入れております。学生の中にはコロナ禍の状況で、留学半ばで帰国を決断する学生も多くいました。それらの学生に対して、感染拡大防止の水際対策強化の措置である14日間の待機にかかる費用の一部を支援しました。また、来日する留学生に対しても待機場所への移動手段の手配等の支援を実施しました。

【人間科学部 4年】 この度は留学先からの帰国に際し、支援金をいただきましたこと、心よりお礼申し上げます。昨年3月、コロナウイルス感染拡大のため、残念ながら、志半ばで早期帰国となりました。加えて、待機期間の費用負担など不安な気持ちを抱えておりました。しかし、ご支援のおかげで、安心してホテルで待機期間を過ごすことができ、その後前向きに留学先のオンライン授業を継続して修了することができました。誠にありがとうございました。

その他の支援

・困窮した学生の臨時雇用
・授業料免除、減免
等を実施しました。

未来基金から
支出した支援



理事・副学長
(学生支援担当)
田中 敏宏

大阪大学では、政府・自治体の動向に沿いつつ、独自に定めた行動ガイドラインと活動基準に基づき、ゼミや研究室等における実践を伴う対話式少人数教育等、可能な限りキャンパスでの教育活動を推進すると同時に、あらためて教育の本来あるべき姿の再認識に基づき、対面式とメディア授業の長所を活かした「ブレンデッド教育」を進めております。その実施にあたり、学生に対するWi-Fiルータの無償貸出に基金を活用させていただきました。また、政府が定める水際対策のため、留学から帰国した学生の空港から自宅までの移動手段確保や待機期間中の宿泊費用等を基金から支援させていただくことができ、学生の不安を和らげることができました。

これらは、卒業生や元教職員、本学教職員を中心に多くの方からの「学生支援」へのご寄付のおかげです。あらためて多大なご支援に感謝申し上げます。

■ 阪大病院の役割

医学部附属病院は、大阪府から人工呼吸器を必要とする新型コロナウイルス感染症の重症患者を重点的に診療する役割が与えられています。新型コロナウイルス感染症の診断までを高度救命救急センターで初療対応し、続いて集中治療部(ICU)で本格的な治療を施します。本院のICUは臓器移植などの高度医療にも対応できるので、新型コロナウイルス感染症の重症患者にも高度な医療を提供できます。一方で、PCRやCTで迅速に新型コロナウイルス感染診断を行う、大阪府設定の「トリアージ病院」としての役割も担っています。また、重症患者の診療の他、大阪コロナ重症センターへの医療従事者の派遣、大阪府や吹田市のワクチン接種会場に医師・看護師を多数派遣し、貢献をしています。



重症コロナICU 23床	中等床コロナ病床	大阪重症コロナ センターへの 医療従事者派遣	ワクチン接種
2021年5月26日現在 延べ 3,198名入院	2021年5月26日現在 延べ 84名入院	医師2名、看護師14名、 MSW*2名を派遣	吹田市の ワクチン接種会場に 医師・看護師多数派遣

※医療ソーシャルワーカー

■ 基金の活用

医学部附属病院では、新型コロナウイルス感染症の重症患者を中心に受け入れており、PCR検査体制の整備等、院内感染防止に万全を期した上で、一般診療を継続し、地域の中核病院としての役割を果たしております。そのような中、本学では過度な負担が生じている医療従事者に対して、手当の新設、医療現場での業務支援、一時預かり保育室の設置等を行いました。そのうち、新型コロナウイルス感染症対策基金の活用等により、感染者等と直接、もしくは物品等を通して間接的に接する作業を行う病院従事者へ新設した手当として、延べ**3,700名**(2020年2月～2021年3月)の医療従事者に手当を支給することができました。



病院長 土岐 祐一郎

新型コロナウイルス感染症対策基金にご寄付を賜りました全ての皆さまに心より感謝申し上げます。現在も、新型コロナウイルス感染症を取り巻く環境は厳しい状況が続いておりますが、そのような状況の中、皆さまからの温かいご支援・ご声援は何よりの励みになっております。これからも全職員が一丸となって、安心・安全な医療をお届けできるよう、職員一人ひとりが使命感を持ち、全力で努めてまいりますので、引き続き皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。ご寄付を賜りました全ての皆さまに重ねまして御礼申し上げます。

PICK UP! クラウドファンディングの活用

コロナ禍における安心・快適な患者搬送を目指して ～最後の砦を守る～



●寄付総額:1,851万円 ●寄付者:430人 ●募集終了日:2021年5月31日

大阪大学医学部附属病院は新型コロナウイルス感染症患者の搬送を数多く行っています。しかし、搬送時に使用しているビニール製のアイソレーターの中は陰圧環境となるため、患者の顔周りにビニールが吸着しやすく、視認性にも問題があります。また車内の感染対策のための準備や清掃に出勤前後に合計約2時間費やし、1日の搬送件数も制限せざるを得ない状況でした。そのような状況を改善すべく、感染対策を強化し、安心・快適な患者搬送をめざしたオリジナルアイソレーターを導入するためのクラウドファンディングを実施し、多くの方々からご支援をいただきました。頂戴したご支援により、一刻も早くオリジナルアイソレーターを製作し、患者搬送に役立てさせていただく所存です。

大阪大学では、新型コロナウイルス感染症の克服に向けて、学内の多くの組織・研究者が互いに連携し、また、他大学、企業、自治体等とも連携しながら、予防ワクチン、診断技術、治療薬等の開発、重症化メカニズムの解明、防疫や感染拡大の分析・予測等の研究開発に全学を挙げて取り組んでいます。

■ ご寄付を活用した研究開発プロジェクト

新型コロナウイルス感染症の根本的克服に向けた合同研究プロジェクト(チーム阪大Project)

2020年7月、新型コロナウイルス感染症に対する研究開発を分野・組織を超えて推進する「チーム阪大Project」を立ち上げました。免疫学フロンティア研究センター(IFReC)、微生物病研究所、医学部附属病院(及び大阪府の関連病院)の連携に加え、理学研究科、薬学研究科、生命機能研究科、産業科学研究所などからも研究者が参画し、定期的なミーティングで研究進展や最新知見の共有、意見交換を行うなど、大阪大学が一体となって研究開発を推進しています。プロジェクト始動から短期間にも関わらず、既に多数の優れた研究成果が上がっています。



チームリーダー: 竹田 潔
免疫学フロンティア研究
センター(IFReC)拠点長

●チーム阪大Project 研究テーマ例

- ・将来発生する他の類似ウイルス感染にも有効なワクチン開発
- ・重症患者の病態解析
- ・重症化に関与する機構の解明
- ・COVID-19のマウスモデルの構築
- ・感染増強抗体の検出法に関する研究
- ・新規治療薬候補を同定する遺伝統計ソフトウェアの開発 など



微生物病研究所 荒瀬 尚 教授

PICK UP! 最新の研究成果

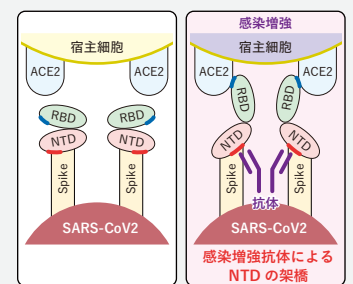
感染増強抗体を増やさない安全なワクチンづくりへ

●取り組み

ウイルス感染の防御には中和抗体が非常に重要な機能を担っていますが、感染を増強する抗体が存在します。そこで、本研究では安全なワクチン開発のために、感染を増強する抗体の検出法に関する研究を行いました。さらに、新型コロナ患者さん由来の抗体に関しても感染増強作用の解析を行いました。

●成果・展望

新型コロナウイルスに感染すると感染を防御する中和抗体ばかりでなく、感染性を高める感染増強抗体が産生されていることを初めて発見しました。さらに、感染増強抗体により、中和抗体の作用が減弱することが判明しました。この発見は、感染増強抗体の産生を誘導しないワクチン開発や重症化しやすい人を事前にみつける検査につながる重要な成果です。



スパイクタンパク質(Spike)のNTDの感染増強部位に(紫色)が結合すると感染性が増大する。



理事・副学長
(共創担当)
金田 安史

コロナ禍でこれからの社会の動向が見通せない中、新型コロナウイルス感染症に関する大阪大学の研究活動をご理解いただき、学内外のさまざまな方々から研究開発支援へのご寄付をいただきましたことに、厚く御礼申し上げます。

大阪大学は「いのちと暮らしを守る」ため、感染症やウイルスに関する基礎研究やワクチンの開発研究はもちろん、免疫学やゲノム科学などの医学・生命科学分野のほか、自然科学、人文社会科学などの多様な切口で感染症に立ち向かう必要があると考えています。また、新たな感染症を正しく理解し、適切に行動することをめざし、最新の研究情報を社会の隅々までに届きやすい言葉で発信することや、感染症による医療崩壊を防ぐための医療従事者の人材育成を進めることも重要です。

皆さまからいただきましたご期待をしっかりと受け止め、これまで以上に社会との共創・研究活動を進めてまいります。

中之島 キャンパス 再開発事業



オープンスペース(交流の場)
イメージ



箕面 新キャンパス 整備事業



大阪外国語大学記念ホール
「新たな知を共創する場」として、国際シンポジウムから
市民フォーラムまで幅広い活用が可能なホールです。

大阪大学創立90周年・大阪外国語大学創立100周年記念事業募金

2023年4月中之島キャンパス再オープン

大阪大学の前身、大阪帝国大学発祥の地、「大阪市北区中之島四丁目エリア」に2004年に開設した、本学の社会学共創活動拠点である中之島センターを、文化・芸術・学術・技術という「四つの知」が交差する社会学共創、アート、産学共創のグローバル発信拠点形成を目指し、大規模改修・機能強化することとしております。

大阪市内、中之島では、大阪中之島美術館の建設も進んでおり、新たな文化拠点としての整備が本格化しております。

また、再生医療をベースにゲノム医療や人工知能(AI)、IoTの活用等、今後の医療技術の進歩に即応した最先端の「未来医療」の産業化を推進するため未来医療国際拠点の設置が進められています。



大阪大学発祥の地 中之島 堂島川をはさんで、当時の医学部附属病院(左)、医学部(右)、中央は田菱橋

●大阪市北区中之島四丁目エリアのスケジュール

2021年3月31日	中之島キャンパス一時閉館
2022年2月 2日	大阪中之島美術館オープン
2月15日	中之島キャンパス工事着工
2023年4月 1日	中之島キャンパス再オープン
2024年6月	未来医療国際拠点オープン



大阪大学「ワニ博士」

大阪大学創立90周年・大阪外国語大学創立100周年記念事業募金

2021年4月箕面新キャンパス開校

箕面新キャンパス整備事業により、「大阪外国語大学記念ホール」を外国学研究講義棟に設置しました。このホールを「新たな知を共創する場」として国際シンポジウムや市民フォーラムなどに活用するとともに、引き続き、箕面新キャンパスを整備していきます。



外国語学部長
竹村 景子

皆さまからの温かいご支援をいただき、大阪大学箕面新キャンパスは本年4月1日に無事に竣工いたしました。当初の予定よりも規模を縮小いたしましたが、記念式典も滞りなく開催することができました。本年は外国語学部の祖である大阪外国語学校創立から100年目にあたり、その記念すべき年に箕面市船場の立派な新キャンパスに移転となり、しかも、キャンパス内には大阪外国語大学の名を冠した記念ホールを設置することができました。同窓生をはじめ、多くの皆さまからのご支援、ご協力の賜物と思っております。箕面キャンパスを使用する複数部局を代表いたしまして、改めて心より深くお礼申し上げます。

今後は、大阪大学のキャンパスの中で唯一明確な使命を帯びた名称「OUグローバルキャンパス」と呼ばれるにふさわしい、国際交流と文化交差の拠点となるべく、尽力してまいります。引き続き皆さまのご支援を賜りますよう、お願いいたします。

■ 箕面新キャンパスのコンセプト

1. グローバルキャンパス「多様な言語と文化を学び、周辺と強調してともに発展」

世界の多様な言語を基底とした語圏学を学ぶ学生と、70以上の国と地域から日本語・日本文化を学びに来た留学生が集う世界に開かれたキャンパスであると同時に、その知を世界に広く還元する場として発展していきます。

2. スマートキャンパス「文理融合の新しい産学官民連携」

大学自体が社会の実験室となるというリビング・ラボラトリーの考え方のもと、キャンパスは箕面市文化施設や2023年度開業予定の「箕面船場阪大前駅」ともペDESTリアンデッキや広場で接続されます。良好なアクセスと開かれた空間を実現することで、学生教職員と市民が幅広く交流することを目指します。また、ICTや空調・環境技術などの実証実験やさまざまな社会実験を展開できるキャンパスとしています。

3. サステイナブルキャンパス「大学キャンパスとして日本初のLEED-NDゴールド認証取得」

世界的な環境認証制度LEED※により、研究講義棟はNC(建物単体新築カテゴリ)ゴールド、キャンパスとして日本初となるND(街区・まちづくりカテゴリ)ゴールドを取得しました。省エネ・省資源はもとより、より広い視点での持続可能性を追及しています。

※LEED...Leadership in Energy and Environmental Designの略称。NC(New Construction)や、ND(Neighborhood Development)などのカテゴリがある。



～ ゆめ基金、それは未来の社会の「ゆめ」を応援する仕組みです ～

さまざまな夢が世の中にはあります。夢の実現には、ともすれば地域から世界全体にまで及ぶさまざまな課題の解決が必要かもしれません。大阪大学は「多様性の尊重と豊かな時間により、自由な発想と高い知性を育む」という理念のもと、社会との共創を通して、「生きがいを育む社会」に向けた「夢」に末永く寄り添い続けます。

大阪大学は創立以来、10数万人に及ぶ卒業生と世界最先端の学術研究の成果を社会に還元してまいりました。多くの卒業生が、企業・官公庁・教育研究機関・医療機関などさまざまな分野の第一線で、そして世界中の至るところで活躍しています。また、本学の研究成果は、社会・顧客の課題解決につながるイノベティブな製品・サービス、健康長寿社会を実現する医薬品開発などに活かされてきました。

「ゆめ基金」は、大阪大学の伝統を受け継ぎ、未来社会への貢献を継続するため、海外大学への留学・インターンシップ、学部生の意欲的な自主研究、若手研究者の学会発表、課外活動の表彰、さらに激甚災害で保護者の方が被災され経済的に支援が必要な際に本学の学部生・大学院生に特別奨学金を給付するなど活用させていただいております。

お一人おひとりのご支援が、長い年月にわたり繋がることで、支えられる活動はさらに大きくなり、これら全てのご支援を通じて、大阪大学からの卒業生や研究成果による未来の社会の「ゆめ」への貢献に繋げる、それが「ゆめ基金」です。卒業生をはじめ、広く地域の方々や企業・団体等の皆さまに、「ゆめ基金」へのご支援をお願いいたします。

自主研究 奨励事業



ギリシャ劇における女性蔑視表現と現代上演におけるその解決 安川 奈那 文学部3年

古代ギリシャ劇をジェンダーの観点から見た際の問題が、現代でどのように描かれるべきかということを考えました。この研究を通じて、基本的な研究能力はもちろん、さまざまな人と関わることで、更に研究の可能性が広がっていくことを学びました。

中等教育課程における震災を題材とした探究学習教材の開発 見城 佑衣 文学部3年

私は文学部所属ですが、震災学習について以前から関心がありました。自費ではなかなか満足に行うことが難しい東北地方での実地調査を1週間にわたって行いました。その後、実地調査に基づいて中学生向けの探究学習プログラムを開発し、自らが講師として実際に中学校で実践しました。

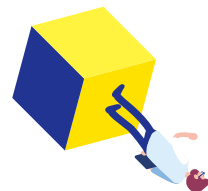


大阪大学未来基金 にご寄付いただき、

ありがとうございます。

今回の経験を無駄にすることなく、

更なる学びの向上に 努めたいと思います。



ぬいぐるみのソーシャルネットワーク可視化 による情緒的価値の発現と変容

橋川 莉乃 基礎工学部3年

実在するぬいぐるみを模したアバターのバーチャル空間上での交流のようすを自動生成するツールを開発し、それらがもたらすぬいぐるみへの印象の変化を探りました。本研究を通じて、学部学生でありながら企業の方にお話を伺う機会や学会発表で議論を交わす経験を得ました。

「キャンパスライフレス」が新入生に与える心理的影響

戴 宇熙 人間科学部2年

私は「キャンパスライフレスが新入生に与える心理的影響」というテーマで研究したいと考えようになりました。約1年の研究を通して、対面で得られることが多いという結論に至りましたが、オンラインを通じてさまざまな選択肢が広がったのも事実です。コロナ禍の期間で経験したことを無駄にしない研究を今後も行ってまいりたいと思います。



下川 友菜 外国語学部インドネシア語専攻4年

3月にインドネシア大学のオンライン留学プログラムに参加することができました。入学当時から3年の夏にインドネシア大学に留学したいと考えていたのですが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により留学を諦めざるを得ませんでした。そのため、実際にインドネシア大学の授業を受ける機会をいただけたことをとてもうれしく思うとともに非常に感謝しています。



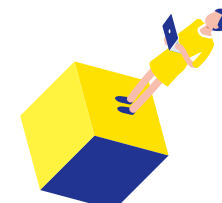
大森 元喜 外国語学部ロシア語専攻3年

モスクワ大学オンライン研修への参加は自身のロシア語学習において非常に有意義な経験となりました。2週間の研修を通し、実用的な言語運用能力、特に自らロシア語を用いて自らの意見を発信していく力をはじめ、ロシアの文化、歴史の体系的な知識を得ることができました。

グローバル化 推進事業

畠山 依緒里 外国語学部中国語専攻3年

私は台湾師範大学の「台湾華語オンライン研修プログラム」に参加させていただきました。毎日授業で中国語での会話を練習し、また講演会では台湾の文化や歴史、社会について理解を深めることができました。このプログラムは台湾華語に触れられる貴重な機会だったと感じています。これからもこの学びを生かし、専攻分野の学習に励みたいと思います。



Yufeng Huang 大阪大学短期留学特別プログラム(OUSSEP)特別聴講学生

My original country is Taiwan and I have studied at University of Strasbourg in France. I have an internship course proposed by OUSSEP program in which I could join local communities mainly in Ishibashi shopping street. In the future, thanks to my internship course, I finally made up my mind to work in local revitalization (地方創生, an idea which originated indeed from Japan). I have learned a lot from my experiences here in Osaka and would like to bring those knowledge back to Taiwan.



●未来基金ゆめ基金事業「自主研究奨励事業」とは

学部学生のうちから、自ら課題を見つけ研究する学生を支援することを目的に、1研究に対して1名の教員がアドバイザー教員となり、学生の研究活動の指導、及び1研究当たり約4万円～約40万円の研究費を助成しています。2020年度は34組、82人の学部学生に対して、支援を行いました。

●未来基金ゆめ基金事業「グローバル化推進事業」とは

世界を舞台に活躍できる国際性豊かな人材の育成を目的として、留学奨学金等のさまざまな事業を実施しております。2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、渡航を伴う留学・派遣プログラムが中止となる中で、オンラインでのプログラムを中心に支援を行いました。

特定基金の活用

～ 使途を特定したプロジェクトをご支援いただくための基金です ～

未来基金ホームページの「特定基金」から、カテゴリー、キーワードを入力して検索していただけます。

■全学プロジェクト ■修学支援・研究者等支援プロジェクト ■学部・研究科等のプロジェクト
■課外活動等のプロジェクト ■冠プロジェクト

ここでは4つの特定基金事業の活動をご紹介します。

歯学部・歯学研究科建物改修事業



歯学研究科長 今里 聡

歯学部・歯学研究科では2020～2021年度にかけて、老朽化が進んでいる既存建物の改修工事を行っています。この改修に当たり、最高峰の歯学教育・研究機関としての理想的な教育・研究環境を整備することを目指して、「歯学部・歯学研究科建物改修事業」を設置いたしました。同事業にご賛同いただきご寄付を賜りました皆さまには、心より感謝申し上げます。

お陰様で改修工事は順調に進んでおり、2020年度は予定通りC棟南側の改修が完了いたしました。2021年度はC



改修工事完了後の歯学部本館C棟外観



改修工事完了後の実習室

棟北側及び大講義室を含むD棟の講義室全般の改修に着手し、2022年3月には全ての工事が完了する予定です。頂戴いたしましたご寄付につきましては、これら改修工事及びそれに伴う設備の更新等に役立たせていただきます。

今後も日本を代表する歯学教育・研究機関として、世界の歯科医学・歯科医療の発展に貢献すべく邁進してまいります。引き続き、本学部・研究科への温かいご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

女性活躍支援事業



理事・男女協働推進センター長
奈良 哲



大阪大学女子大学院生優秀研究賞の表彰式 2021年4月



女子大学院生と企業等との交流会 2019年11月

女子学生支援と次世代の研究者育成、女性研究者の研究活動の支援、女性教職員のキャリア支援及び修学・研究・職場環境の整備を目的として、2015年度から本事業を開始しました。これまでの間、皆さまからの温かいご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

皆さまからのご寄付により、女子中高校生を対象とした理系進路選択応援イベントの開催や、優れた研究成果を挙げた女子大学院生を表彰する「大阪大学女子大学院生優秀研究賞」、女性研究者の研究活動支援などを行ってまい

りました。皆さまのご支援に感謝申し上げます。

今後は、「入学支援金制度」をはじめとする若い世代に向けた裾野拡大の取り組みや、アンコンシャス・バイアスの払拭に関する取り組みなど現在及び未来の女性研究者へのさまざまな支援を実施することにより、ジェンダー・ダイバーシティの一層の推進に貢献し、更なるイノベーションにつなげてまいりたいと考えております。皆さまの深いご理解と引き続きのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

体育会男子ラクロス部支援事業



体育会男子ラクロス部部員一同



リーグ戦の様子(赤ユニフォームが本学)



試合前円陣の様子

大阪大学体育会男子ラクロス部です。OBOGの皆さま、保護者の皆さま、当部関係者の皆さま、平素より応援していただきまして、誠にありがとうございます。

私たち男子ラクロス部は2017年11月より、「体育会男子ラクロス部支援事業」を設立し、支援金をこの事業への寄付という形で頂戴しております。皆さまからいただきました支援金は、大会参加費や備品代等、部活動の発展のために使用させていただいております。改めてお礼申し上げます、誠にありがとうございます。

当部は、2015年には関西学生ラクロスリーグ1部で優勝、2016年では関西学生ラクロスリーグ1部で惜しくも準優勝、その悔しさをばねに2017年には関西学生ラクロスリーグ1部優勝を、全日本学生選手権では準優勝を果たし、現在も関西学生ラクロスリーグ1部に所属しております。今後の活動の幅を広げ、更なる発展と関西制覇・日本一という目標を果たすべく、皆さまからのご寄付をお願いしております。

今後とも、大阪大学体育会男子ラクロス部への変わらぬご支援をよろしくお願い致します。

体育会水泳部支援事業



体育会水泳部部員一同



温水プールでの練習の様子



競泳の試合の様子

大阪大学未来基金での体育会水泳部支援事業に過分なるご寄付をいただき、誠にありがとうございます。私どもの活動にご協力いただいたご厚意に部員一同深く感謝しております。支援を呼びかけたきっかけは豊中キャンパスのプール修理のためでした。水泳部のOBOGの方を中心に呼びかけをいたしました。皆さまから多大なるご寄付をいただき、昨年中止になった七大戦水球の部の代替試合における会場費や運営費として使用させていただく予定

でした。残念ながら感染拡大の状況が好転せず中止となりましたが、お寄せいただいたご支援は、温水プールの利用料や備品、消毒液の購入に使用させていただきました。今シーズンはご支援のおかげもあり、新たにインカレ標準を切る選手が出るなど飛躍の1年となりました。今後は七大戦での競泳アベック優勝や、水球インカレ出場などを目標に邁進して参ります。重ねて多大なるご支援、ご寄付をいただいたこと、水泳部を代表して厚く御礼申し上げます。

●大阪大学修学支援事業基金・・・意欲にあふれる優れた学生が、未来を切り拓く「知の探究者」として輝けるように、経済的な理由により修学が困難な学生を支援させていただきます。

●大阪大学研究等支援事業基金・・・不安定な雇用状態にある研究者等が自立した研究者として行う研究活動や、研究活動の成果を発表、異分野の研究者との交流等の支援のために活用させていただきます。

※「大阪大学修学支援事業基金」及び「大阪大学研究等支援事業基金」へのご寄付については、他の未来基金同様の「所得控除」に加えて、「税額控除」の適応対象となります。確定申告の際、「所得控除」、「税額控除」のいずれかを選択いただけます。



大阪大学「ワニ博士」

人生の集大成としての「遺贈」

皆さまの想いを未来に届けます。

遺贈とは、遺言等によりご自身の財産の全部又は一部を特定の人や団体に譲与するものです。これまで築いてこられた財産や先代から引き継ぎ守ってこられた財産も、やがては相続という形で次世代へ承継されていくこととなります。遺贈では、ご自身の財産を「母校の発展・前途有為な人材の育成に役立てて欲しい」「自分の生きた証を残したい」「自分の受けてきた恩恵を社会に還元したい」など、ご自身の想いを、遺言執行を通じて確実に反映させることができます。

大阪大学では、遺贈により社会に貢献したいとお考えの卒業生・在校生の保護者の方々・教職員・篤志家の方々等からのご寄付をお受けしております。ご遺志に沿った遺贈がなされるよう、想いに寄り添いご相談を承りますので、大阪大学未来基金事務局へお問い合わせください。

● 相続税について ●

大阪大学に遺贈でご寄付いただいた財産については、相続税はかかりません。また、相続で取得された財産を故人のご遺志・ご遺族のご意志により本学にご寄付いただいた場合にも、相続税申告期限内のご寄付であれば、本学が発行の「寄付金領収書」を所轄税務署にご提出の上、手続きすることで相続税は免除されます。

クラウドファンディング

大阪大学クラウドファンディング
https://readyfor.jp/lp/osaka_univ/



2018年より大阪大学未来基金は、インターネットを通じ、不特定多数の支援者から寄付金を募るクラウドファンディングを実施しております。皆さまからの力強いご支援をいただき、これまで15件のプロジェクトが成立し、研究教育活動・社会貢献活動に累計6,000人を超える方々から1億4千万円のご支援が集まりました(2021年3月末時点)。今後も大阪大学の持つ知を広く社会に還元し、イノベーションを推し進め、世界に羽ばたく人材を輩出するためのさまざまなプロジェクトを実現すべく、皆さまからの力強いご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

PICK UP! 入院中の赤ちゃんに24時間会えるシステム構築を!

寄付総額:32,138,00円 寄付者:1,170人 募集終了日:2020年11月30日



総周産期
母子医療センター
小児科 准教授
北島 康司

新型コロナウイルス感染症の流行による厳しい面会制限により、私たちの働く新生児集中治療室(NICU)では、生まれてきた赤ちゃんにご両親がまったく会えなくなっていました。赤ちゃんに会えずとも1枚の写真を握りしめて搾乳を続ける母、生まれたはずの赤ちゃんに会いたいと泣く小さなお兄ちゃんの姿に胸を痛めたわたしたちは、“オンライン面会システム”の構築を目指してクラウドファンディングを行いました。この活動はまたたくまに広まり、全国のたくさんの皆さまより支援をいただくことができました。5月末にシステムが完成し、いまオンライン面会が進められています。初めて赤ちゃんを見たご両親の涙、おじいちゃんおばあちゃんの優しい笑顔、そして小さなごきょうだいの明るい歌声に、私たちも大きなよろこびを感じています。そしてこの活動を支えてくださった皆さまに、ここから感謝の念を抱いております。このシステムをより多くのご家族に利用していただき、大切な“家族の絆”を守るためにこれからもがんばっていききたいと思います。



応援の声



樽本 弘子 様

私が初めて大阪大学病院にお世話になりましたのは、八年前のステント手術の際でした。その後も度々他の心臓疾患の為、昨年には1ヶ月半程入院し、そして手術をしていただきました。とても親身に診ていただき、先生方始め看護師やスタッフの皆さま方にお世話になりました。

退院が近づくにつれ、その感謝の気持ちを何かの形にさせていただきたいと思うようになり、先生方に相談をさせていただいた矢先、新聞記事で阪大NICUのクラウドファンディング募集を知りました。私も4人の子どもがおりまして、数々のことを経験いたしました。「新型コロナ:入院中の赤ちゃんに24時間会えるシステム構築を!」の事業を知り、“オンライン面会システム”の実現のために是非応援をさせていただきたいという思いでいっぱいになりました。

今後色々なご縁をいただき、ご協力させていただこうと思っています。これから大阪大学未来基金事業に益々のご発展をお祈り致します。

応援の声

世界の全ての国を制覇 郷里大阪への想い



自ら収集したコレクションを展示する「世界の人形館」にて撮影

大阪大学90周年 大阪外国語大学100周年 おめでとうござい
ます。新型コロナウイルス感染症のまん延や東京五輪パラ2020開催という後世に残る年に、大阪大学未来基金への寄付者を代表し応援メッセージを寄せますこと、84歳の老兵にとり光栄です。

私は幼少時から世界に憧れ、幸い商社マンになり9年海外駐在しました。またリタイア後も好きな旅を続け、世界の全ての国を制覇しました。半世紀にわたり訪れた国・地域は、南極や北極点を含め275です。各国の旅先でふっと想起するのが、やはり生まれ学んだ大阪です。今は千葉県在住ですが、私の心は常に大阪から離れません。

一昨年長年連れ添った妻を亡くし、終活を本格的に始めました。その中心はこの10数年間注力して来た各種社会貢献活動の仕上げで、集大成は母校・大阪大学への寄付でした。寄付額は些少ですが、半世紀にわたり世界に足跡を残してきた身として、大阪大学のグローバル化推進の一助になれば幸甚です。

高 康治 (こう やすはる) 様

1962年 大阪外国語大学卒業
 同年 三井物産入社
 1989年 同 退社
 同年 株式会社スカイコー設立 代表取締役就任
 2002年 同 退任
 2009年 プライベート・ミュージアム
 「世界の人形館」を開館 現在に至る

学生時代の夢を後輩に託す



ご寄付により購入した新艇にて、選手とともに記念撮影

僕の大阪大学の思い出はヨット部に尽きると思います。ヨット部での最大の思い出は秋の新人戦です。この時の僕の乗った船は先輩の所有する新しいヨットで、僕と実に相性が良く軽快にトップを走ったことを覚えています。しかしトップを走ったのはこの時だけで、しかも借りたヨットです。いつか自分の艇でトップを走るのが夢でしたがそれはできないので、後輩に僕の支援でトップを走ってもらおうと思い、レース艇1艇の購入資金を未来基金「体育会ヨット部支援事業」に寄付しました。幸い阪大ヨット部には素晴らしい選手がおり、関西インカレなどで堂々トップでゴールして見事僕の思いを果たしてくれました。こんな嬉しいことはなく、また寄付の喜びも知りました。

その後も微力ながら救助艇のエンジンや合宿所のキッチンセットなどの購入資金を寄付しました。後輩の嬉しそうな顔を見ると僕も大変嬉しくなります。阪大と阪大ヨット部に栄光あれと祈念しております。

蓮沼 和彦 (はすぬま かずひこ) 様

1971年 大阪大学工学部卒業
 同年 旧三和銀行(現三菱UFJ銀行)入社
 2000年 同 執行役員システム部長
 2002年 同 退任
 2004年 旧日立システムアンドサービス
 (現日立ソリューションズ)等を経て現在に至る

ご寄付者への顕彰

● 感謝状の贈呈

2万円以上のご寄付をいただいた皆さまに、総長から感謝状を贈呈します。



● ご芳名の掲載

未来基金ホームページ内の「WEB芳名帳」に掲載させていただきます。



● 「大阪大学感謝の集い」にご招待

一定期間・一定額以上のご寄付をいただいた皆さまをご招待させていただきます。

